

八戸工業大学 同窓会報

シビル会（土木同窓会）& 拓北会（建築同窓会）

～ 設立 25 周年記念事業 ～

八戸工業大学同窓会シビル会（土木工学科同窓会）・拓北会（建築工学科同窓会）が設立二十五周年を迎えました。今年度はその記念事業の一環として、記念講演会と集う会を開催いたします。

合いながら旧交を深めて頂くための趣向を考えています。同窓会に初めて参加される卒業生や、同窓会や大学からちよつと疎遠になりつつある卒業生の参加を心よりお待ちしております。皆様お誘い合わせの上お気軽にご参加下さい。

記念講演会は、今年新たにプロ野球に参入した株式会社楽天野球団（東北楽天ゴールデンイーグルス）の広報担当者をお招きし、球団設立までのエピソードや東北地方における地域密着型の戦略・展開などについて、一般市民の方々も対象としたソフトな内容で実施する予定です。

また、記念講演会終了後の同窓生の集う会では、設立記念セレモニーを開催します。さらに、今年度の卒業一年目（平成十七年三月卒）、十年目（平成七年三月卒）、二十年目（昭和六十年三月卒）の卒業生の参加を強く呼びかけ、大学時代の思い出や近況を語り

東北地方にプロ野球団がやってきた!!（仮演題）

1. 記念講演会
東北地方にプロ野球団がやってきた!!（仮演題）

講師：株式会社楽天野球団（東北楽天ゴールデンイーグルス） 広報担当

日時：平成十七年五月二十八日（土） 十八時から十八時五十分

場所：八戸グランドホテル 〒031-0031 青森県八戸市番町十四番地 TEL 0178-146113

第7号
3月・9月発行
八戸工業大学
同窓会本部事務局
TEL
0178-25-8027
FAX
0178-25-6183

今年の集う会は、全学科の卒業1年目（平成17年卒）、10年目（平成7年卒）、20年目（昭和60年卒）が、大勢集まるぞ!!

※講演会は演題および講師が変更される場合があります。予めご了承下さい。

2. 同窓生の集う会

記念講演会終了後に開催します。

日時：平成十七年五月二十八日（土）十九時から二十時三十分

場所：八戸グランドホテル

会費： 学部卒業一年生 無料
三十歳未満 千円
三十歳以上四十歳未満 三千円
四十歳以上 五千円

※卒業生相互の情報交換や懇親を一層深めて頂く事を目的に、同窓生の集う会の終了後、学科や卒業年単位でクラス会（懇親会）を開催します。こちらも是非参加して下さい。なお、集う会終了後、独自のクラス会を企画している卒業生は同窓会本部事務局まで一報下さい。企画・開催を積極的に支援します。

支部總會のお知らせ

次のとおり各支部で同窓生の集う会が行われます。お近くにお住まいの方は、ご友人をお誘いあわせの上、是非ご参加下さい。教職員も多数参加させて頂きます。

各支部の集う会への申込方法は、同封葉書かE-mail (dosokai@hi-tech.ac.jp) へ、お願い致します。

北海道支部總會
日時：平成十七年六月十一日（土） 十八時三十分

会場：札幌エクセルホテル東急（札幌市中央区南八条西五丁目二〇） 会費：五千円



東北支部總會

日時：平成十七年七月十六日（土） 会場：ホテルリッチフィールド仙台（仙台市青葉区国分町二二二）

第一部：講演会 時間：十七時～十八時 第二部：懇親会



時間：十八時三十分

会費：四千円 特典：ビンゴゲームで景品付

秋田支部總會
日時：平成十七年六月二十五日（土） 十八時

会場：大町ビル（秋田市大町三丁目二一四四） 会費：五千円

お知らせ：秋田支部では総会にあわせてゴルフコンペを計画しています。興味のある方や参加を希望する方は明珍勲氏は明珍勲氏 (E-mail: imyo uchin@o.ocn.ne.jp) までご連絡下さい。



建築工学科 拓北会

八戸工業大学建築工学専攻 技術研究報告会

十一月二十六日、八戸工業大学・大学院建築工学専攻では技術研究報告会を開催しました。当日は、学内はもとより東京、大阪、横浜など遠路から約百名が参加しました。建築工学専攻主任 熊谷浩二教授の挨拶の後、三篇の研究報告が行われました。

第一篇目の「家相と風水の比較」その思想と術について(坂本教授)では、家相と風水の成り立ちから、住居の吉凶判断まで広範囲な内容が紹介されました。家相は風水を基本とし、これに他の要素も取り入れて発展させた日本独特の空間吉凶判断術であり、両者の対象は家相が住居だけなのに対し、風水は都城、村落、住居から墓地に至るまで、極めて広い範囲に適用されます。これは風水が地相術であることに起因していて、吉凶判断方法は両者とも形と方位の二つを適用しています。風水では、その思想が庶民にまで浸透しています。報告では沖繩の事例を多用し、両者の比較を多面的に展開しました。第二篇目の「東北地方のコンクリート構造物の凍害について(月永教授)」では、東北地方のコンクリート構造物

の凍害発生の実状について、劣化

症状、発生部位および発生原因について概説し、劣化症状のひとつとして最近目立つようになったスケーリングの促進要因となる凍結防止剤の散布実態について発表しました。また、凍害発生の基本メカニズムおよび粗骨材の細孔構造に着目した凍害劣化の形態について述べ、さらに、凍害劣化の予測や評価に関する課題について考察を行いました。発表に対してコンクリート関係の技術者より多くの質疑が行われました。第三篇目の「床衝撃音性能予測法の可能性と限界を考える(橋本教授)」では、床衝撃音性能の概要から説明が始まり、予測法の精度についての報告がされました。拡散度法は、簡易な床衝撃音性能予測法として多くの現場で利用されており、数値計算法は平板スラブや小梁付床版だけでなくポイドスラブの解析ができるまでに整備されていることを紹介し、これらの手法でどこまで床衝撃音性能の予測が可能なのか、その特長、問題点、精度などを、具体例をもとに比較、分析し、予測法の持つ可能性と限界について考察が行われました。

各演題とも、参加した技術者より活発な質疑が行われ、有意義な

技術討論の場となりました。技術研究報告会は、今後も一年に二回開催される予定ですので、多くの方の参加をお待ちしています。

坂本磐雄先生最終講義

長年、建築工学科で教鞭を取られてきた坂本磐雄先生が今年の三月で退職なさることになり、一月三十一日に最終講義が行われました。講義題目の「沖繩八重山地方の集落風水」は坂本先生が長年続けられてきた沖繩の八重山地方の風水についての研究をまとめたもので、風水と



家相の関係や吉凶の判断など興味深い講義となりました。講義には建築工学科の教員、学生をはじめ他学科

の教員や坂本研究室のOB、OG、外部からも多数参加があり、活気のある最終講義となりました。講演の後、坂本研究室の学生から花束が贈呈されました。

最終講義の後、「坂本先生を囲む会」が八戸グランドホテルで行われ、坂本研究室OB、OGや建築工学科の教員など約四十名が参加し、坂本先生と思い出話を花を咲かせていました。坂本先生は退職後、福岡に戻り風水関連の書籍の執筆をなさる予定です。

藤林修克さん 福祉住環境コーディネーター二級に合格



七月に行われた福祉住環境コーディネーター検定試験二級に、四年

生の藤林修克さんが見事な成績で合格しました。藤林さんは、定年退職後に建築士を目指していた本学に入学し、現在四年に在籍する六十六歳の現役の学生。去年の福祉住環境コーディネーター三級合格に続く今年の二級合格で「ぜひ

最近の建築工学科の様子

前回の同窓会誌で紹介しました二階製図室の改修が九月に完了し、後期の授業より使用が始まりました。新しくなった製図室はそれぞれの製図台がパーティションで仕切られ、より作業に集中できる環境になりました。また、エアコンが設置されているため、季節に関係なく快適な室温での作業が可能となりました。今年の冬は寒さが厳しいですが、遅い時間まで製図作業をしても苦になることはありま



せん。ギャラリィは常時開放されているので、授業などで使っている時以外は学生が自



由に利用できます。こもエアコンが設置されているため、時折学生がホワイ

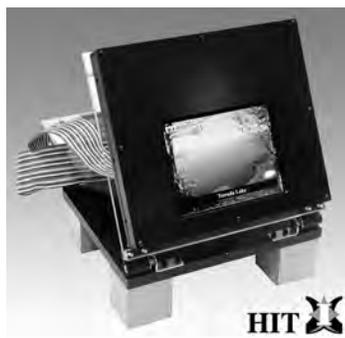
使いながら話をしたりしている姿が見られます。廊下のオープンカフェをイメージしたギャラリィ前のテーブルには休み時間や放課後に学生が集まり、課題や設計の話をしたりしています。アトリエでは本格的な工作作業が可能になり、授業では竹ヒゴで作った軸組み模型や構造の模型などを作っているのその仕組みを確認するなど、二階製図室改修後は今までにない授業が展開されています。大学に越す際にはぜひ二階製図室をご覧ください。

電子知能システム学科 水交会ニュース

研究室探訪

関 研究室

低消費電力、高品位で目に優しい次世代液晶ディスプレイに求められる新要素技術は何か？ 青森県地域結集型共同研究事業では平成十三年から産学官連携でこの課題に取り組み始め、平成十八年まで続けられる。八戸工業大学は地域大学の中心として事業提案当初から関わり、メンバーにはOBを含めて七名が加わっている。事業では光源色を切り替えるフィールド・シーケンシャル方式と高速OCBモード液晶を融合した方式を開発している。成果として動画像が鮮明で、色彩鮮やかなディスプレイを開発した。写真は試作した六型の次世代ディスプレイである。回路素子の削減や製造工程の簡素化ができコスト面での優位性もあり、国際会議では多くの関心



HIT



を引いている。青森県はむつ小川原開発地域内に液晶関連産業の集積を目指す「クリスタルバレイ構想」を推進している。今後も基礎研究から産業創出に至るまで、多くの方々への支援や参画をお願いしたい。

信山 研究室

当研究室では、主に生分解性プラスチックに関する研究を行っております。生分解性プラスチックは、トウモロコシなどの植物資源を原料とすることができ、使用後は自然界の微生物や分解酵素によって水と二酸化炭素に分解されます。近年では封筒の窓や苗ポット、PCの筐体、自動車のフロアマット等に採用されておりますが、電気絶縁材料としての実用化は進んでおりません。そこで、当研究室では生分解性プラスチックの耐環境試験、機械的特性や電気的特性の測定、物理化学分析さらには材料の改質等を行っております。

の耐環境試験、機械的特性や電気的特性の測定、物理化学分析さらには材料の改質等を行っております。

同窓生としての抱負

浦田 卓治 平成十七年卒

就職先：(株)日本原燃



私は八戸工業大学に入学し、大きく成長できたと思います。

様々な講義や卒業研修を通じて、専門分野の基礎知識とその応用・展開能力、自主的で継続的に学習できる能力、さらに社会人としての良識と工学倫理などを身に付けることができました。また硬式野球部に所属していましたが、部活動を通じて技術・体力の向上とともに、高校ではできなかった人間性を磨くことができたと思います。これからは八戸工業大学卒業生としての自覚と誇りを持ち、一社会人として社会に貢献できるように頑張りたいと思います。

OB・OGだより

佐々木 一晃 さん 平成8年卒 (坂本研究室) 現在：東洋電機

製造(株) 横浜製作所

産業設計グループ 勤務

私は大学卒業後神奈川県東洋電機製造(株)に入社しました。現在は横浜製作所で新聞転機機のシステム設計を行なっています。みなさんの読んでいる新聞はもしかしたら私が設計した機械で刷られたものかも知れません。大学在籍中には坂本教授のもとでパラメトリックモータの研究をしました。そのときに学んだモータとインバ



一々の制御の経験がいま仕事に大変役立つています。大学で学んだことが生かせる仕事に

就けてよかったですと思います。私生活の方でも充実した日々を送っています。今から七年前に研究室で一緒だった人と結婚しました。そしていまは一歳になる子供と三人で暮らしています。大学時代の仲間達とも時々会っています。大学生活の四年間は大変実り多い時間だったと思います。皆さんもたくさん経験をつみ、たくさんの人たちと出会いをしてください。

八島 崇行 さん

平成十五年博士前期課程電気電子工学専攻修了(坂本研究室)

現在：学校法人原学園 苫小牧中央高等学校 情報科 教諭

現在、北海道の私立高等学校情報科の教諭として日々教鞭を執っている八島です。大学では、大学院での研究を先輩に指導したり、TAとして実験の手順を説明したりなど、「教える」ということを様々な形で経験してきました。その経験が実を結んだのかは分かりませんが、八戸工業大学で学んだ知識や経験を基に、教育現場に携われる自分を、今、幸せに感じています。まだまだ未熟で精進の毎



日ですが、生徒の気持ちを理解し、共に歩める教員を目指しています。

月館 加奈枝 さん

平成十五年卒 (小松崎研究室) 現在：(株)本田技術研究所 勤務

社会人として働く事になって三年目に突入しそうになっている現在、大学で学んだ事とはあまり関係の無い仕事に取り組んでいます。自分が希望した通りにはならないのが社会なのだ痛感させられますが、これはこれでチャンスだと考えています。今まで知らなかった事をやっていくことで、一つの事(分野)にとらわれない、他の事にも目を向けられる人間になれるのではないかと思います。私以外にも、大学で学んだ事とは違ったり、希望とは違う仕事をしている人が多くいるかと思いますが、前向きに頑張れば希望はあります。少なくとも私はそう思います。同窓生の皆さん、目標を大きく持ち、前向きに頑張ってください！



同窓生の皆さん、目標を大きく持ち、前向きに頑張ってください！

環境建設工学科 シビル会通信

留学生、馮 慶革さん

学位取得!!

このたび、中華人民共和国より大学院土木工学専攻に留学していた、馮 慶革さんが博士（工学）の学位を取得し、四年余りの留学生生活を終え無事に帰国した。日本（八戸工業大学）での留学生生活の感想などを帰国直前に書いていただいた。

八戸工業大学での

留学生生活を終えて

馮 慶革（中華人民共和国 広西大学助教教授）

私は、平成十二年六月に客員研究員として来日し、平成十四年四月に大学院に入学しました。八戸工業大学での留学生生活は、周りの

大学での教育・研究を振り返って

環境建設工学科・教授

杉田 修一

この度、二十八年に亘ってお世話になりました本学を退職させて頂くことになりました。過ぎ去った日々、今は夢の中にあるように



も感じますが、学科を子供に例えれば、誕生、泣き笑いの子育て、社



皆さんの暖かい心遣いで日本の生活や仕事の進め方にも慣れ、研究に打ち込むことができた

ました。このほど土木工学専攻の農業廃棄物としての「もみがら灰」の総合的利用の研究により、博士（工学）の学位を取得することができました。ご指導いただいた先生方から御礼申し上げます。研究以外にも、この四年間余りの間に日本各地を訪れる機会に恵まれました。東京でのあてやかな

会の波に翻弄されたり揉まれたり、しかし今は立派に成人したと言ってよいでしょう。嬉しい話、悲しい出来事、行く人来る人、など全部克明に思い出すことができます。

本学科は、昭和五十一年四月、土木工学科としてスタート致しましたが、学科の経緯については他に譲り、ここでは個人の研究活動に諸君に知って頂ければ幸いです。揺籃期・発展期・成熟期は大学や学科ではなく、あくま

夜景、京都の静謐なたたずまい、北海道の欧米風の風景、新緑や紅葉が美しい十和田湖と奥入瀬溪流、八戸の広大な天然芝の種差海岸、そして、そこに生きる人々。みんな素晴らしい。日本の国土は広くありませんが、とても清潔で便利な日本の生活がすっかり染込んでしまいました。私にとって忘れられないのは接してくれた全ての日本人達です。どこに行っても親しげにやさしく迎えてくれた大勢の人達が、今私の目に浮かんでいます。

帰国後は、さらに研究に勤しみ立派な先生になれるよう頑張るつもりです。これからも自分の選んだ道に信念を持ち、最大限の努力とチャレンジにより自分の夢に向かって人生を切り開いて行きたいと考えております。

（写真左・馮 慶革さん）

で私個人の時間区分ことです。

①揺籃期：私は昭和五十二年四月からの勤務です。準備が万全でない状態での学生の受け入れ・教育は、かなりの困惑と危機意識の中で開始されました。私は、諸般の事情から「コンクリート工学」を担当することになりましたが、実験施設が未整備で、円柱型枠三本と三十リッター傾動式ミキサー一台が主たる設備での実験開始は、これからコンクリートの勉強をしなければならぬ私にとっては、

さすがに心身にこたえました。当時は工業高校からの学生諸君が殆どを占めていましたので、少しでも大学の体験らしい雰囲気を出そうと苦悩したものです。また、教養ばかりでなく、何を研究するか、これも大変頭を悩ませた問題でありました。しかし、この揺籃期の学生諸君は、強烈な個性の持ち主が多く、勉強が大変よくできる者、運動が得意な者、クラスの雰囲気作りのうまい者、宴会盛り上げ人間、エスケープのうまい者、など学生気質の多様性を教えてくれた学生諸君がたくさんおりました。これも揺籃期の大きな特徴であったと思います。実験室の整備はなかなか進みませんでした。このような学生諸君との交わりと楽しさが私の心を救ってくれました。また、本学へ赴任前の会社では、新入社員の社内教育も担当していました。本学においても講義だけでは駄目で、「演習」の重要性を強く認識したのです。これは今後時代が変わっても同じだと思います。

②発展期：数年の揺籃期を経て、実験室の整備も進み（これには私自身の努力も大きいものがあります）、と云っていいかもしれませんが、有効利用という研究テーマもはっきりと見えてきました。ここでは「もみがら灰コンクリート」だけを述べます。自慢話をするのを許してください。私が研究を開

始した当時の日本・世界のこの分野はかなり進んだ研究も出ていたのですが、幸いにも私はこれをさらに発展させ、過去の研究にはなかった新しい面を開拓することができました。幾つかの国際会議で発表しているうちに、関係ができて中国から素晴らしい「余 其俊」先生を迎えて益々研究は発展し、ある国際会議では開幕講演をするという名誉ある経験もさせて貰いました。

③熟年期：「もみがら灰コンクリート」も次々と新しい課題が出て参り、いつ終了するとも判らない状況でありましたので、とりあえずそれまでの成果を纏めて母校である北海道大学から「博士（工学）」を授与されました。審査の全先生方からは身に余る「お褒めの言葉」も頂き、感激したものです。その後は山道浩仁君（土木十四期）と余先生の後継者八された馮 慶革先生がさらに研究を行い、もみがら灰研究の裾野を広げたのです。

私が在任中やりたいと思っていたもみがら灰に関する研究は殆ど終了しました。しかし、やりたい研究は次々と出てきているのですが、私には時間がありません。これらの研究課題が今後の本学科発展の一つの起爆剤になって欲しいと念願し、同窓生諸君のJAB E Eへの協力、健康と幸せを祈念して終わります。長い間有り難うございました。

機械情報技術学科 蒼峰会だより

あと一年・来春で卒業です

菅原 章

卒業生の皆さん、こんにちは。平成三年の五月から、本校にお世話になっている菅原です。



あの当時は機械工学科という名称でしたが、平成十三年度より、機械情報技術学科に学科名称が変わり丸四年過ぎようとしています。時代の要求に合致し、かつ会社・社会に貢献でき得る人材にと願って、講義科目名称や内容にも手が加えられた結果でした。

こちらに赴任した当時は一学年百五十人前後の学生が在籍し、五

ユニバーシアード冬季大会 坂頂兄妹が出場

平成十七年一月十一日から二十二日まで、オーストリアのインスブルックで開催されたユニバーシアード冬季大会のフィギュアスケート・アイスダンスの部に、坂頂達也（環境建設工学科四年）・みなみ（システム情報工学科二



年）兄妹が日本代表選手として出場した。ユニバーシアード大会は、

全世界の学生の総合競技大会で別名【学生のオリンピック】と言われている。兄達も「入賞は果たせなかったが、自分達の練習成果を出し切り楽しく滑ることができた」とことや「他国の様々な種目の選手と交流を深め、大学生活での良い思い出となった」など笑顔で感想を語った。

方、工程の考え方を身につけてもらおうと思っているのですが……。年度内で単位が取れなければ過年度でと思う学生が増えている傾向は、期限・約束を守ることを大事と考える立場からは理解に苦しむところです。動力がハンドル軸、ハンドル軸歯車、中間軸・中間軸歯車、そして巻胴軸・巻胴軸歯車と力が伝達され、巻胴軸が回転するか、これらの位置関係、工程の良否、材料の良し悪しなど、図面のポリシングのための必要最小限の検図を基本にしているのです。

十七年度の卒研生を含めて、平成三年以来の当研究室配属の学生総数は百三十八名及び院生四名で、卒業研修テーマの大部分は、現工作技術センターの方々のご指導を頂きながらの「もの造り」を中心に行ってきました。微小径ドリル加工、ラッピング加工、刃先成形機の試作、盲導犬ロボットの試作、スターリングエンジンの試作、同窓会の益々のご発展を祈念します。

形の試作、イカソウメン加工機の試作等々、卒業後少しでも設計あるいは機械加工現場で役立つテーマを取り組んで来ました。エンジンが回ったと言っては一階の廊下を走り回って同級生に自慢した学生、旋盤加工中に危うく作業衣を巻き込まれそうになった学生等々、それに自己顕示の強い学生、内向的な学生と幅が広く、それぞれの長所を伸ばしつつ、短所はなるべく直してもらおうように努めたつもりです。

飲み会の多い研究室であるとの評判は覆すことが無いように、努力しています。当研究室の飲み会は所属の学生さんの数よりも何時も多く、顔は知っていても名前も知らない学生さんが混じっていたり、研究室の先輩が混じっていたりと、小生自身も楽しんでいました。工大の宿舎には、今まで何人泊まったのかこれに関しては記録が無いので分かりません。結婚式には当研究室出身以外にも含めて現在三十二人の卒業生に呼ばれてい

ます。同期の卒業生との顔合わせ、情報交換の場にもなり、これまた小生自身も楽しみの一つになっています。退職後も含めて存命中にあと何人から御呼ばれがかかるか今から楽しみます。

学生さんのお付き合いもあと一年と思うと寂しい気がしますが、新たな邂逅はなくなるものの、旧交を今まで以上に温めることはこれからも可能と思っています。今までも学園祭の時期にあるいはわざわざ八戸に足を運んでいただいていた方がとうとう。まだこれから一年は当地八戸におりますので、元気な顔を見せに来学して下さい。そして一緒にしましょう。

最後になりましたが、同窓会事務局から、何でも良いですから一筆書いてくださいとのこと、一年一年前にあたっての心境を書かせて頂き、小生来学以前の卒業生にはあまり関係の無い話になってしまいましたが、誠にありがとうございます。同窓会の益々のご発展を祈念します。

JABEE受審報告

システム情報工学科がJABEE（日本技術者教育認定機構）の本審査を受審した。審査員の評価は概ね好評で、特に全学およびシステム情報工学科のJABEEへの取り組み体制が大きく評価されました。認定されれば、情報処理学会・情報および情報関連分野

において、数少ない貴重な認定校となります。さらに、環境建設工学科がJABEEの中間審査を受審しました。JABEE初の中間審査に対し、的確な対応をして高い評価を受けました。今後は、レベルが向上していくであろうJABEEの基準に注意をし、更なる努力を尽くします。

システム情報工学科 うみねこ会ネットワーク

○ 第二回 うみねこ会開催

第三十三回学園祭初日の平成十六年十月二十三日(土)に第二

回うみねこ会が八戸工業大学システム情報工学科棟2F非常勤講師控室で開催されました。大学での開催ということもあり、大学院に進学した卒業生を中心に、およそ十五名が参加し、それぞれの近況について語り合いました。また、苦米地学科長の始め多くの教員の先生方も出席し、一回り成長した卒業生との親睦を深めました。さらに、会の中でうみねこ会会長



様々な企業や組織で短期間の就業体験を行うインターンシップを進めている。今年度は、夏休みを利用して実際に仕事に従事した三年生八名が、それぞれの職場での体験を発表した。参加した学生から「社会人としての心構え、実社会の厳しさを実感した。コミュニケ

インターンシップ報告会

環境建設工学科

平成十六年十一月十八日(木)、環境建設工学科においてインターンシップ報告会が行われた。近年、環境建設工学科では教育・就職支援活動の一環として建設会社、コンサルタント、官庁など

○ O B ・ O G

近況報告

浜平 賢一・二期生

こんにちは。第二期卒業生の浜平です。私は大学卒業後の進路は大学院に進学しました。研究のテーマは「ビジネスアルフィードバックによる倒立振り子の制御に関する研究」について事になってます。あまり進んでないです。申し訳ございません。

大学院生になっ

てから、先生方と飲む事もしばしばあります。研究などの事に限ら

ず、面白い話を聞けて良いもんです。大学院の学位論文が終わった頃に、また飲みたいと思っっている今日この頃です。そろそろ就職活動の時期が迫ってまいりました。関東方面だと、もう終わりそうな時期なのでしょうか。もしよろしければ、皆さんのコネで私を引き取ってください。どうかかなりそうだと思えば、ご一報いただけるととても助かります。研究、就職活動共に頑張っていこうと思えます。

三浦 亜希子・二期生

私が日新火災海上保険株式会社に入社して、一年近くになります。工業大学を出て保険会社に入社する事は、大学で勉強したプログラムなどに全く関係ないため、仕事に関する内容は本当に一からの勉強でした。今年度の一年間は、自動車保険を担当し、来年度の一年間は火災保険や積立保険など担当予定です。現在の私は、仕事の要領も悪く仕事に追われる日々を過ごしています。現在の目標としては、保険業界で必要な資格を多く

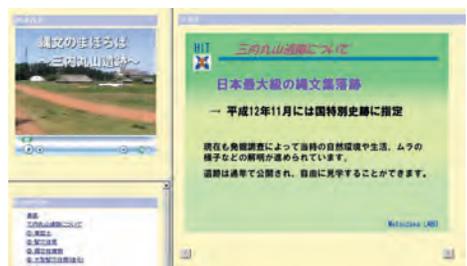
取得するという事です。今はまだ、商品基礎という資格しか取得できていません。働きながら、資格の勉強をするということの大変さが今になって感じています。しかし、大変ではありますが、もっと多くの資格を取得していきたいと思っています。

○ インターネット

TV放送局の紹介

教授・松坂知行

O B ・ O G の皆さんお元気ですか? ソフト開発、システム設計、ネットワーク構築など忙しい日限に迫られ、さぞかし多忙な毎日をお過ごしのことと思います。今回「インターネットTV放送局」という耳慣れないシステムを紹介させていただきます。NTTによれば、西暦二〇一〇年には三千万戸の家庭に光ファイバーを敷設する計画だそうです。そうなる、電波を使ったTV放送だけでなく、インターネットを使ったTV放送が可能になります。光回線のインターネットを使えば、安価な



投資で、草の根レベルの多様なコンテンツが放映可能になると考え、少し時代を先取りするつもりでインターネット

「プロはすごい。」「専門だけに勉強になった。」「専門だけでなく総合的な知識が必要。甘い考えは通用しない。」「普段何気なく見ている川も、その川を支えるために多くの人が働いている。技術者に何が求められているか考えさせられ

た。」「土木行政の現場で貴重な体験ができた。」などの感想が述べられた。また、今回の受け入れ企業への多くは卒業生が勤めている会社であることから、諸先輩方の技術者としての姿を直接見ることであった。さらにも大きな収穫であった。さらに、報告会を聞いて

インターネットTV放送局の研究を始めました。皆さんがコンテンツを見るときは、IEのインストールされたパソコン、ADSL以上の回線をもっていればどこからでも閲覧できます。現在、学科紹介、地域に関する情報、青森県の観光、講義、産学連携、国際交流など合計四十本ほどのコンテンツがあります。八戸工業大学システム情報工学科へ遠隔講義の順にクリックして下さい。動画、音声、テキストが同期して視聴できます。BSもありませんので、ご感想をお知らせ下されば幸いです。

他の学生たちにとっても将来の職業選択をする上で貴重な指針になったようだ。

本学では、今後ともインターンシップを取り入れた教育を積極的に実践して行く予定である。卒業生諸氏のご協力とご支援をお願い申し上げます。

エネルギー工学科 OB会通信

「私の近況」

田村 祐（一期生）

皆様、お元気でしょうか。エネルギー工学科第一期生の田村と申します。

卒業してから十九年が経とうとしております。私は、入社した日本電気エンジニアリングでPBX（構内交換機）の回線制御パッケージのファームウェア設計を、その後転職したサン・マイクロシステムズ（Sun）では、社内システム管理を行う部署でサーバの運用管理等を担当しております。現在は退職し、今までの経験を生かしてフリーでインフラシステムコンサルタントをやっております。

私が八戸工業大学に入学した当時の先生方は、学生とコミュニケーションをとるために研究室を開放しており、特に内山先生は、一台しかなかったNECのパソコンPC8001を学生達に開放し、コンピュータを身近なものにしてくださいました。もちろん当時は、一般家庭にパソコンが普及していない時代です。パソコンに興味のあった学生は、講義後などに暇さえあれば内山先生の研究室に行き、雑誌に載っていたプログラム（BASICやアセンブラ）

をパソコンに入力しては、カセットテープにセーブし、遊んでおりました。沢山のプログラムを入力しているうちに、言語・プログラム構成、そして作り方の基本を自然に習得することができました。

私の場合、このことがきっかけでパソコンやソフトウェア設計に興味を持つようになり、更にはIT業界へ進出できたのだと思います。

電子メールに興味を持ち、メールサーバの管理者になるまでの話をしたいと思います。

日本電気エンジニアリングへの入社後は、回線関係の仕事をしていたせいか、パソコン通信とか電子メールに興味を持つようになり、学生時代に培ったBASICプログラミングで通信ソフトを作り、モデムでパソコン通信をしておりました。Sunに転職してからは、電子メールは既に社内コミュニケーションのツールで、一度に複数の人に送信することができて画期的だと思います。当時は、会社間の連絡は電話やFAXが普通で、電子メールは社内と一部のインターネットが利用できる企業とのやり取りだけでした。インターネットは専用回線を通じてUS

内で唯一の商用プロバイダができた時、私に国内インターネット接続プロジェクトの仕事が与えられました。私にとっては非常に良いチャンスでしたが、インターネットの設定について無知で、しかも当時は参考になる本が販売されておらず、専門雑誌と英語のドキュメントを探すところからはじめ、それらをまとめながらの仕事になり、サーバを設定するまでに苦労しました。運用開始後には、当時の国内インターネットは多少不安定なところがあり、電子メールの障害等の時には、社員からの苦情処理とサーバの調査、プロバイダとのやり取りで疲れきっていました。それから数年間、夜も眠れぬメールサーバの管理者をしておりました。

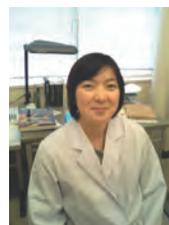
最後になりましたが、学生時代に先生方から必要であると思われる環境を惜しみなく提供していただいたお蔭で、エネルギー工学科一期生は多方面に就職することができたと思います。私もIT業界で最先端の仕事をする事ができて、先生方には非常に感謝しております。八戸工業大学には引き続き、就職先で即戦力になる人材を育てていただきますようお願いしたいと思います。

一期生の皆様、同窓会を開催する機会がありましたら是非お会いしましょう。それでは、皆様、お元気で。

「着任の「あいきつ」

エネルギー工学科・
生物環境化学工学科

鮎川 恵理



昨年、四月に助手として赴任いたしました鮎川恵理です。専門

は植物生態学、出身地は東京です。前職では、東京都板橋区にある国立極地研究所生物部門で非常勤研究員としており、南極に生育するコケ植物の生態の研究をしておりました。博士課程修了後、常勤で勤めるのは本学がはじめてとなります。まず、なぜ私が南極のコケを研究するにいたったかについて、記させていただきます。東京農工大学農学部環境・資源学科在学中、一年中ザックを背負って登山に興じる中、人のいない雪山の白い世界に魅力を感じ、漠然と「将来、南極に行きたいなあ。」と思いはじめました。「南極？たしか、南極観測隊に所属しているのがあるから、なにか関係する研究をすればいいんだ！やるなら好きな生物だ。」と安直に考えたのがきっかけです。その後、農工大の先生のお力添えにより極地研究所で卒業研究をはじめ、南極のコケと出会いました。以来、二〇〇〇年から二〇〇一年の第四十二次南極観測隊への参加を含め、八年間極地研究所でお世話になりました。

不純な動機でコケ植物の研究を

はじめた訳ですが、コケ植物というのは、皆様がよく目にする種子植物とは違った性質をもつ、おもしろい植物です。熱帯から寒帯、極地にまで生育可能、地球上もとても分布域の広い陸上植物だと言え、南極にも生育しているのです。南極のような厳しい環境でも生育できる要因として、乾燥耐性と少し変わった繁殖方法があります。コケ植物は何度となく乾燥にさらされても、乾燥ワカメのように再び吸水し、光合成を再開することができます。また、胞子にたよらずとも繁殖できる無性生殖を頻繁に行います。たとえば、風で引きちぎられた葉や茎が、水分のある場所におちればそこから再生し、新しい個体が生まれるのです。もちろん、そのちぎれた葉や茎が乾燥しても、再生可能。一見、死んだように見えても死んでいない、それがコケ植物です。今後も野外観測と室内実験により、コケ植物の生態や生育環境との関係について研究していく予定です。

八戸に来て、はや十ヶ月。満員電車で揺られる生活から一転、車の生活にも慣れ、また南極並の寒さにも慣れ、さらに南部弁のヒヤリング能力(?)も少しずつついてきたように思え、赴任前心配はなくなりました。今後も教育、研究に微力ながら努力して参りますので、どうぞよろしくお願いたします。

退職教職員紹介

電子知能システム学科

豊田 淳一教授(嘱託)・・・工学博士、専門分野・・・電力システム工学、知識工学手法応用、電力市場、分散型電源*来年度より大学院特任教授

環境建設工学科

杉田 修一教授(嘱託)・・・博士(工学)、専門分野・・・コンクリート工学、産業廃棄物・機能性材料の有効利用

建築工学科

坂本 磐雄教授(嘱託)・・・工学博士、専門分野・・・都市計画、地域施設計画

伊藤 敬一教授・・・工学博士、専門分野・・・建築構造デザイン、木造建築の耐震性能

エネルギー工学科・生物環境化学工学科

奥田 慎一教授(嘱託)・・・農学博士、専門分野・・・応用微生物学、応用酵素学

システム情報工学科

苫米地 宣裕教授・・・専門・・・コンピュータ工学、情報工学、制御工学、電子工学*来年度より教授(嘱託)

図書館・情報事務室

田名部 正哉事務長・・・副参事

庶務課

木下 保之・・・警備員*来年度より警備員(嘱託)

御子柴 昭重・・・工師(嘱託)

佐々木 英輔・・・警備員(嘱託)

益々広がる国際交流

米国ウエスレー大学英語研修

八月一日から十五日までの日程で英語研修が実施され、高橋学長も同行された。学長はウエスレー大学との交流の機会を見て学生に親身に接せられ、研修をより実りのあるものに導かれた。

高橋学長、中国瀋陽工業大学との学術交流協定延長に調印

高橋学長、福井事務部長、栗原教授、渡辺武秀助教授の四名は、六月二十日から二十六日までの日程で、昭和六十三年から本学と学術交流協定を締結している中国の瀋陽工業大学を訪問した。今回の訪問で、今後五年間の交流延長の協定書への調印式が行われた。

増田学長補佐

新疆大学との学術交流協定へ調印

増田学長補佐、鈴木法人事務局長、藤田教授、山本助教教授の四名は、九月九日から十六日までの日程で、中国の新疆大学を訪問した。本学と工学系分野の学術交流を進める事で合意し、学術交流協定書へ調印を行った。

研究活動紹介

文部科学省ハイテク・リサーチ・センター整備事業

青森県と岩手県にまたがる国内最大規模の産業廃棄物不法投棄問題に対し、本学では関係委員会にも教員を派遣してきた。また、工学的な解決策を提案するために、全学を挙げて廃棄物の総合的な処理技術等の研究開発プロジェクトに着手することを決定。その結果、本プロジェクトを文部科学省の「ハイテク・リサーチ・センター整備事業」に申請、二〇〇三年四月に正式採択され、対応する研究組織として学内に新たに「循環型社会技術システム研究センター」を設置した。高橋学長を代表とし、大学院四専攻全と異分野融合科学研究所の教授らが参加している。

都市エリア産学官連携促進事業

文部科学省「都市エリア産学官連携促進事業」に八戸市が指定されたのを受けて、本学を中心に事業が進められている。この事業は、大学の研究シーズを核にして地域の特性を生かした新事業の創生と育成を目指すもので、期間は三年間、年間一億円の補助金が交付されている。全国三十三の地域から申請が出され、その中から十九地域が指定を受け、八戸地域は、「リサイクルエネルギー高度利用技術開発」をメインテーマに、

「低温暖源回収システム」と「木質バイオガス生成」の研究開発を地元企業と共同で推進している。

八戸工業大学エネルギー・環境教育研究会

この研究会は、八戸工業大学がエネルギー環境教育情報センターよりエネルギー教育調査普及事業の拠点大学として全国十四大学の一つに選ばれたことにより、エネルギー・環境教育に関する研究や実践を推進して行くための組織です。委員長に本学学長、委員として行政機関、教育機関、地域協議会、企業、研究所等で構成されている。さらに、昨年度、教育機関の委員を中心としたワーキンググループを結成し、さらに活動を充実させ、これまでに講演会、講習会、シンポジウム、体験学習・見学会等を開催している。

八戸工業大学地域情報メディアセンター建設に向けてなご一層のご理解、ご協力を

「八戸工業大学地域情報メディアセンター」の建設資金の一部として、卒業生を初め関係各位から、貴重な厚志を御寄せ戴き誠に有り難うございます。この事業を実現のためには、皆様からの一層のご理解、ご協力が不可欠であります。今後とも何とぞご支援を賜りますようお願い申し上げます。

八戸工業大学学長 高橋 燦吉
同窓会会長 白川 直人



新疆大学訪問団一行

http://it.mech.hi-tech.ac.jp/~energy/

同窓会事務局の連絡先(各種連絡先としてご利用ください)

事務局名	TEL	E-mail
本部事務局 (学生部学生課)	0178-25-8027	dosokai@hi-tech.ac.jp
機械・産業機械工学科 (機械情報技術学科事務室)	0178-25-8010	dosokai-m@hi-tech.ac.jp
電気工学科 (電気電子工学科, 電子知能システム学科事務室)	0178-25-8020	dosokai-e@hi-tech.ac.jp
土木工学科 (シビル会事務局)	0178-25-8058 (8030)	dosokai-c@hi-tech.ac.jp
建築工学科 (建築工学科事務室)	0178-25-8040	dosokai-a@hi-tech.ac.jp
エネルギー工学科 (エネルギー工学科, 生物環境化学工学科事務室)	0178-25-8050	dosokai-p@hi-tech.ac.jp
システム情報工学科 (システム情報工学科事務室)	0178-25-8080	dosokai-i@hi-tech.ac.jp